

大豆カメムシ類の防除について

令和7年5月

栃木県農政部経営技術課

1. 主な大豆カメムシ類



イチモンジ
カメムシ



アオクサ
カメムシ



ホソヘリ
カメムシ



ミナミアオ
カメムシ



クサギ
カメムシ



ブチヒゲ
カメムシ

2. 大豆カメムシ類による被害状況

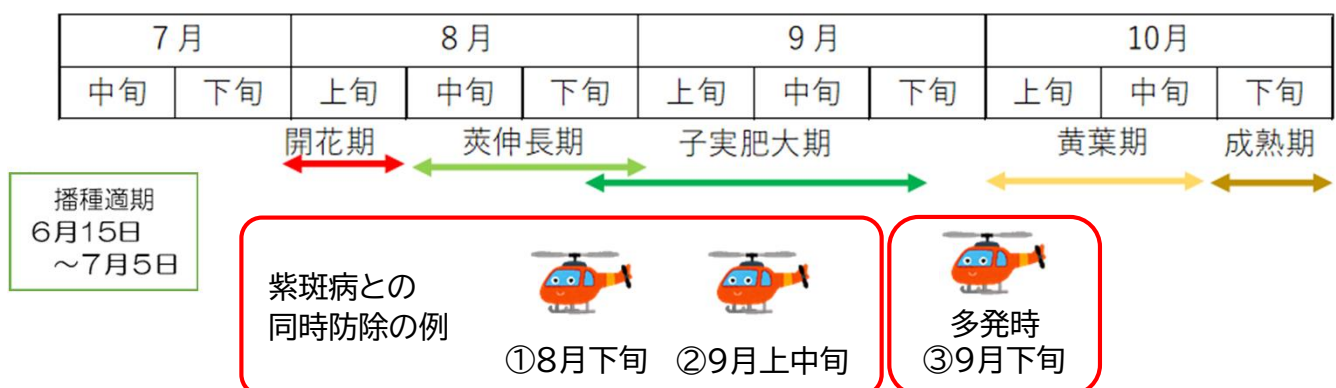
莢伸長期～子実肥大初期	子実肥大中期	子実肥大後期以降
		
吸汁により肥大が止まる。 板莢や落莢が起きる。	扁平粒や奇形粒、吸害粒 (著しい被害粒等) になる。	吸汁痕が残り、 吸害粒になる。

加害が激しい場合、茎葉がいつまでも緑色のまま落葉しない
青立ちとよばれる状態になる。

3. 防除の考え方

カメムシ類は8月中下旬から大豆ほ場に侵入し始め、9月中旬から10月中旬にかけて発生量がピークとなる。莢伸長期(開花15日後)～子実肥大中期頃(開花40日後)が最も防除が必要な時期である。

紫斑病やハスモンヨトウ等、他の病害虫防除と併せて効率的に防除する。



※カメムシの種類によっては、雑草地で繁殖するものがあるため、ほ場周りの除草も重要である。